Konica

SUPER BiG mini ZOOM

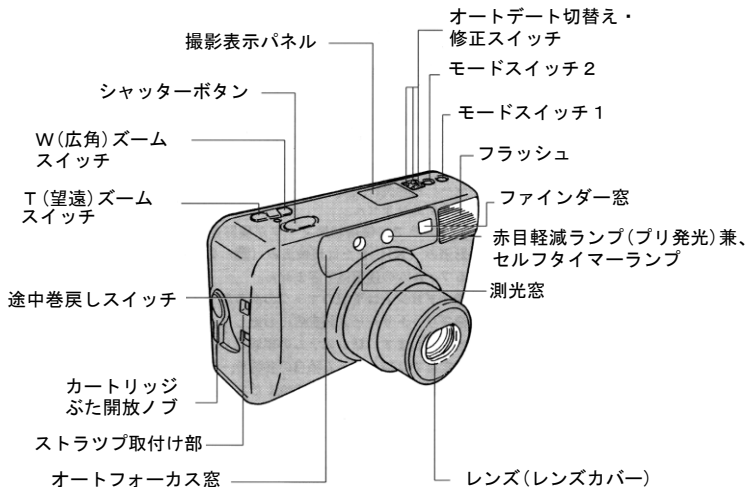
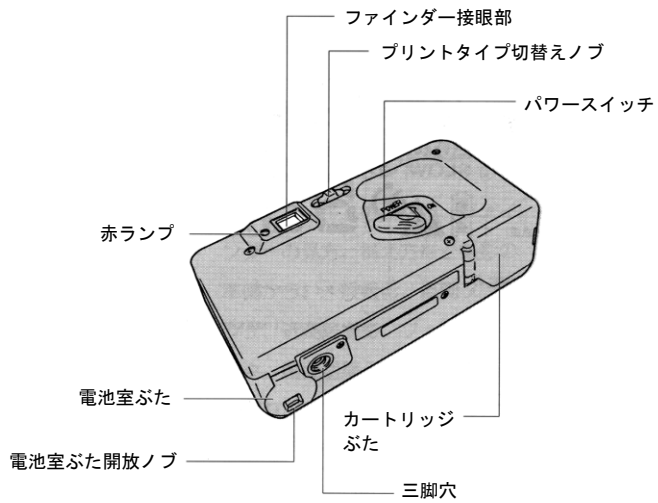
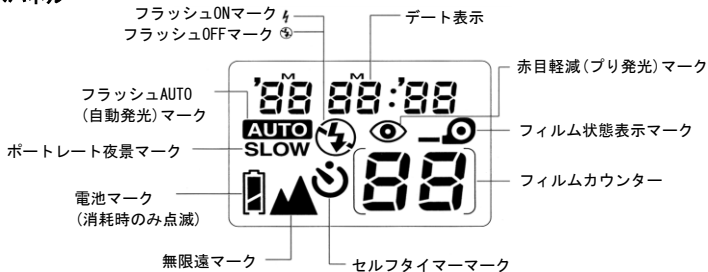
BM-S 630Z

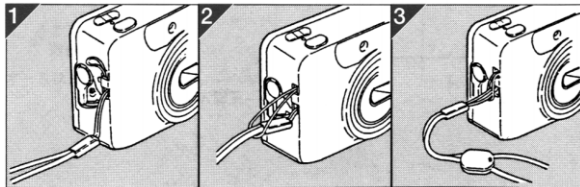
ご使用前に、必ずお読みください。

使用説明書

各部の名称

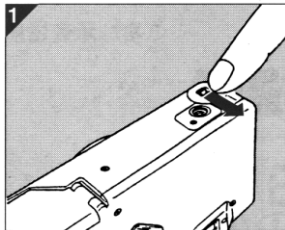
撮影表示パネル
オートデート切替え・
修正スイッチ
モードスイッチ２
シャッターボタン
モードスイッチ１
W(広角)ズーム
スイッチ
フラッシュ
T(望遠)ズーム
スイッチ
ファインダー窓
赤目軽減ランプ(プリ発光)兼、
セルフタイマーランプ
測光窓
途中巻戻しスイッチ
カートリッジ
ぶた開放ノブ
ストラップ取付け部
オートフォーカス窓
レンズ(レンズカバー)

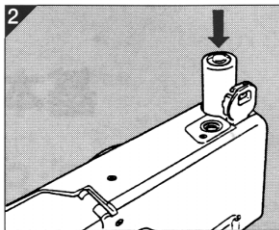
ファインダー接眼部
プリントタイプ切替えノブ
パワースイッチ
赤ランプ
POWER
ON
電池室ぶた
カートリッジぶた
電池室ぶた開放ノブ
三脚穴

撮影表示パネル

(図はすべての液晶を点灯状態で示してあります。)

ストラップの取付け方

基本撮影

電池の入れ方、オートデートの合せ方、フィルムの入れ方、ファインダーの見方、構え方など撮影の準備から、一般撮影、自動フラッシュ、近距離撮影、フォーカスロック、画面切替え撮影、フィルムの取り出し方まで、基本撮影について説明します。

1．電池の入れ方

電池の入れ方

電池室ぶた開放ノブを矢印方向にスライドさせて、電池室ぶたを開けます。

※ 電池を入れたとき、交換したときはオートデートの調整をしてください。

電池の㊀側を先に入れ、電池室内に入れ、電池室ぶたをロックしてください。

警告　爆発して大けがの危険があります。電池を火の中に入れたり、ショート、分解、加熱をしないでください。

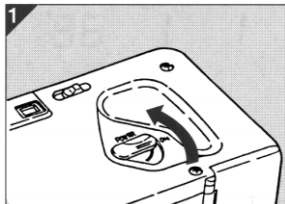
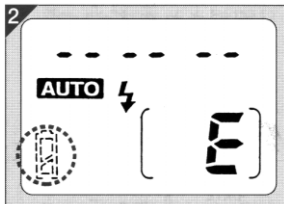
注意　発熱発火の危険があります。指定外の電池を使用しないでください。

電池を交換するときの注意

(1) 撮影途中で、電池マークが点滅したら、電池容量はわずかですので新しい電池と交換してください。

(2) 電池マークが点滅から消灯すると、シャッターがロックされますので、新電池を手ばやく入れ替えてください。

2. 電池容量を確認します

パワースイッチをONにします。

パワースイッチレバーを矢印方向にスライドさせると、レンズカバーが開き電源がONになります。元に戻すと電源がOFFになります。

電源ONにしたときの表示です。電池マークは点灯していませんが容量は十分です。

＊ 液晶表示が全く表示しないときは、電池容量がないときか、電池の入れ方が間違っています。
電池交換か入れ直しをしてください。

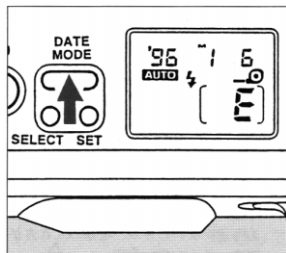
＊ 使用する電池は、リチウム電池(CR-2)一本です。

＊ 連続してフラッシュ撮影をすると電池容量が少なくなって、容量不足のマークが点滅状態になりましたら、しばらくの間パワースイッチをOFFにした後撮影してください。

＊ 寒冷地では電池の性能が低下しますので、カメラを保温しながらご使用ください。まれに電池容量が十分でも容量の少ない表示になることがあります、このときは再度シャッターボタンを押してください。

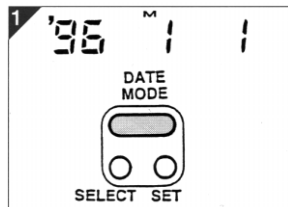
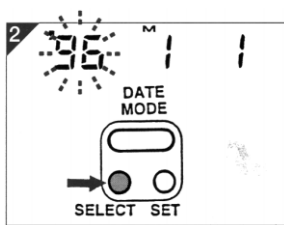
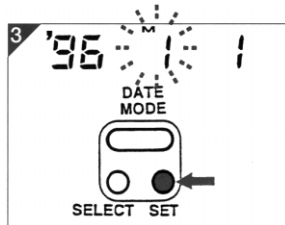
3. オートデート　日付・時刻を合わせてください。

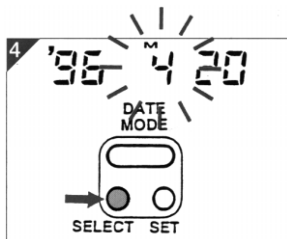
2035年までの日付け・時刻を記憶し画面外に磁気により記録されます。

表示モードの切替え

MODEスイッチを押して、年月日・月日年・日月年・時分・写し込みなしを選びます。

MODEスイッチを一回押すごとに、写し込み状態が下図の順に切替わり表示パネルに表示されます。

＊ オートデートは新システムの現像プリントサービス認定店でプリントする際に印字されます。印字する位置については認定店によって異なる場合がありますので店頭でお尋ねください。

日付・時刻の修正

電池を入れると“______”が表示されます。
MODEスイッチを一回押して年月日モード状態にします。

SELECTスイッチを押して修正する数字を点滅させます。

SETスイッチを押して、数字を点滅のまま修正します。

＊　上記[2][3]の操作を操り返し、年月日を修正します。

SELECTスイッチを押すと点滅が点灯状態に戻り、年月日の修正は終了します。
MODEスイッチを押し、時分の表示にして上記②③を繰り返し修正した後、SELECTスイッチを押すと、時分の修正は終了します。

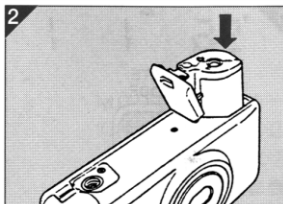
* ［年月日］・［月日年］・［日月年］の表示で修正しても構いません

---

* スイッチの操作は、ストラップの調整具の突起部で押してください。
* 写し込みの位置が明るい場合や白い場合は、デート文字がはっきりでないことがありますから、ご注意ください。

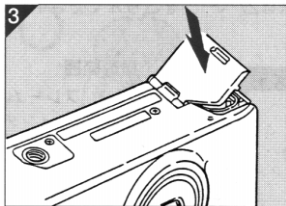
4. フィルムを入れてください

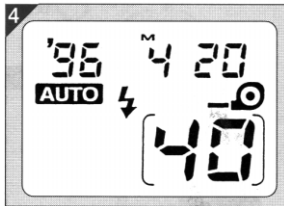
IX240カートリッジフィルムをご使用ください。

カートリッジぶた開放ノブを、矢印方向にスライドさせ、カートリッジぶたを開けます。

カートリッジ(フイルム容器)を、使用状態マーク面の反対側から、カートリッジ室の奥まで押し入れます。

使用フィルム感度は、
ISO 50・100・200・400・800・1600

* カートリッジを入れると使用フィルムの感度(ISO50〜1600)が、自動的にセットされます。
* 誤ってカートリッジぶたを開けて再度カートリッジぶたを閉めると巻き戻しを開始します。
* 必ず指定の、IX240カートリッジをご使用ください。
  今まで使用の、パトローネ(フィルム容器)タイプは使用できませんので注意してください。

カメラにフィルムを入れると感度が自動セットされます

パチンと音がするまでカートリッジぶたを閉めてください。

＊ ふたが閉め終わると、自動的にフィルムが送られます。

フィルム送りがスタートすると、フィルムカウンターが“＿＿”点滅となり送りが終了すると撮影枚数分の数字が表示します。

＊ “E”“⊙”のマークが点滅しているときはエラーのためもう一度入力し直してください。

フィルムが送られているときは、

（40枚撮りの例）

フィルムカウンターに数字と⊙が出ます

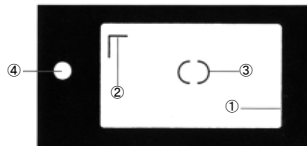
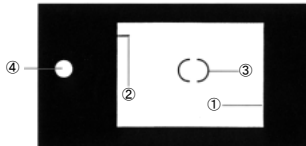
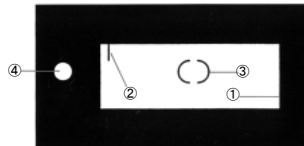
フィルムが送られていないときは、

（表示が点滅状態）

＊ “E”“⊙”のマークが点滅します

5. ファインダーと表示ランプ

切替え操作で、３種類の画面になります。

ハイビジョン撮影時

Ｃサイズ撮影時（標準）

パノラマ撮影時

① 撮影範囲フレーム

実像式ファインダーですから見える包囲がそのまま写ります。

② 距離補正フレーム

近距離撮影時には、このマークより下側が写る範囲になります。

③ オートフォーカスフレーム

このフレーム内の被写体にピントが合います。

④ 赤ランプ

点灯：フラッシュ発光表示
点滅：充電が完了していません
一瞬点灯：フラッシュOFF時

6. 正しい構え方

両手でしっかり持ってカメラぶれを防ぎましょう。

カメラ背部を頬に当て両ひじを軽く締めると安定します。

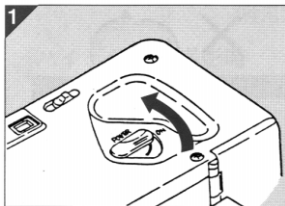
両ひじを開くと、カメラぶれをしやすくなります。

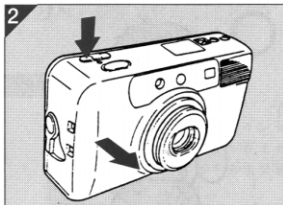
タテーのフラッシュ撮影では、フラッシュが上になるように構えてください。

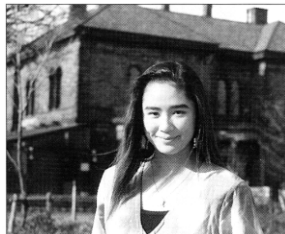
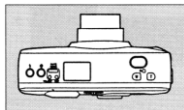
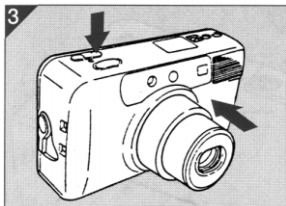
フラッシュを下にして発光すると、写真が不自然になります。

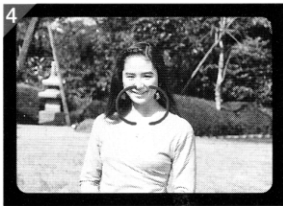
- ＊ 構えた指や毛髪・ストラップなどが、レンズ・オートフォーカス窓・測光窓・フラッシュにかからないようにご注意ください。
- ＊ 安定した姿勢でカメラを両手でしっかり持ち、指の腹で静かにシャッターボタンを押してください。

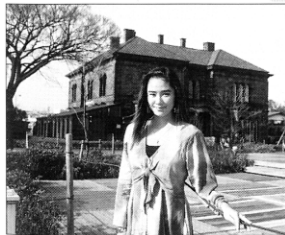
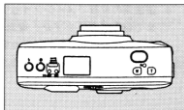
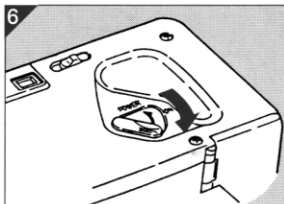
7. いよいよ撮影です（一般撮影）

すべての撮影に共通する基本的な撮影の手順です。

パワースイッチレバーを矢印方向に回すと、電源ONとなり、レンズが撮影位置(30㎜広角)まで繰り出されます。

* ＊ 電源ONでレンズカバーが開きます。
* ＊ 前面のレンズが汚れていたら、軟らかい乾いた布で拭き取ってください。

ファインダー接眼窓をのぞきながらＴズームスイッチを押すと、画面が望遠側に移動します。希望の構図になったとき指を離して止めてください。

* ＊ Ｔズームスイッチは望遠60㎜まで移動します。
* ＊ ファインダーの視野と実際に写る画面は連動しています。

60㎜
Ｔ＝望遠

Wズームスイッチを押すと画面が広角側に移動し指を離せば止まります。

* Wズームスイッチは広角30㎜まで移動します。
* Tズームスイッチで被写体を大きくしすぎた場合、Wズームスイッチで戻すなど、画角の調整が迅速にできます。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

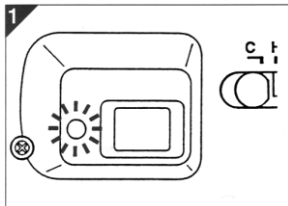
* ハイビジョン撮影・パノラマ撮影のさいは、画面の周辺部に少し余裕を持たせてください。
* レンズが動いているときは、手などで力を加えないでください。
* レンズ操作に異常があると、表示パネルが点滅しますので、いったん電源をOFFにしてから、電源を入れ直してください。

30㎜
W＝広角

シャッターボタンを押して、シャッターを切ります。

撮影が終わったらパワースイッチレバーを矢印方向に回して、電源OFFにするとレンズが収納します。

* 電源OFFにすると、レンズカバーが閉じて、液晶表示が消えます。
  (デート表示は点灯のままです)

* 広角(30㎜)～望遠(60㎜)のどの位置からでも撮影できます。
* 日中撮影距離は・・
  0.6m～∞が撮影できます。

* 望遠側の位置でメインスイッチがONのままの状態でいますと、約３分後に広角位置まで自動で戻りますが、電源はONのままです。電池消耗を少しでも防ぐためにもこまめに電源をOFFにするのをおすすめします。

8. 自動フラッシュ撮影

暗いときフラッシュが自動的に発光します。

シャッターボタンを半押しして、赤ランプが点灯してたら、フラッシュが自動発光します。

* 明るいときは、赤ランプが一瞬点灯しますがフラッシュは発光しません。
* フィルム感度と撮影距離を自動的に判断し、フラッシュの光量が調節されます。

シャッターボタンをいっぱいに押して、フラッシュ撮影をしてください。

* フラッシュ撮影後、数秒間は充電中のためフラッシュ撮影はできません。このとき赤ランプは点滅状態になります。

* 人物をフラッシュ撮影するときは、赤目現象を軽減するため、赤目軽減撮影をおすすめします。
* 連続発光を続けると、電池やカメラの温度が上がることがありますので、そのときはしばらく休ませてから使用してください。

フラッシュ撮影の距離

焦点距離	30mm（Wide）	60mm（Tele）
ISO：200	0.6～5.3m	0.6～2.8m
ISO：400	0.6～7.4m	0.6～4.0m

9. フォーカスロック撮影

被写体を画面中央からはずしてもシャープに写せます。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント位置が固定されます。

＊ 撮影距離を変えないでください。

＊ フォーカスロックと同時に自動露出も固定されます。

半押しのまま希望の構図に決め直し、シャッターボタンをいっぱいに押して撮影します。

＊ 半押しした指をシャッターボタンから離すと、フォーカスロックは解除され、やり直しができます。

オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

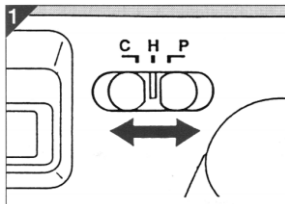
① 反射しにくい黒いもの

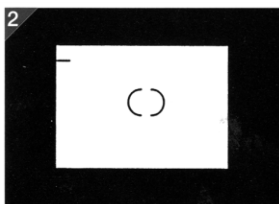
② 小さいもの細かいもの

③ 発光体

④ 光沢のあるものは測距しにくいので、同じ明るさで当距離の測距しやすいものに向けてフォーカスロックをしてください。
ガラス越しの撮影も測距しにくいもので、ガラスに近づけるか、遠景撮影では無遠眼モードで撮影してください。

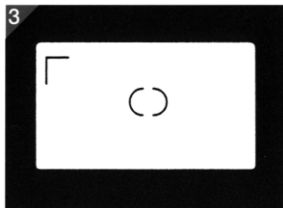
10. プリントタイプの切替え

撮影途中で３画面(**Cサイズ・ハイビジョン・パノラマ**)**に切替えできます。**

プリントタイプ切替えノブを左右にスライドすると、希望する画面になります。

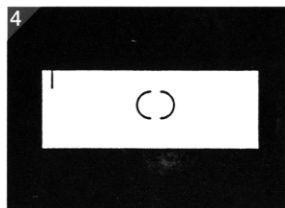
＊ ファインダー画面も同時に切替わります。
＊ 切替えノブのセット位置は、
　Ｃ：クラシックサイズ(標準)
　Ｈ：ハイビジョンサイズ
　Ｐ：パノラマサイズ
＊ デートの写し込みは、標準・ハイビジョン・パノラマの各画面とも写し込むことができます。

Ｃ＝クラシック(標準)で写る構図を決めて、撮影してください。

＊ ファインダー画面で見える範囲がそのまま写ります。

プリントタイプの切替えについて

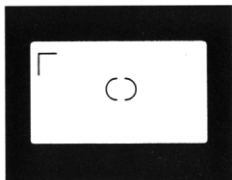
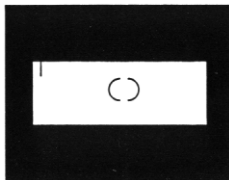
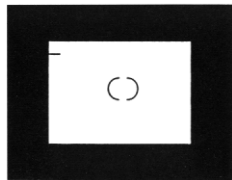
このカメラはＨタイプ、Ｐタイプ、およびＣタイプの３種類のプリントタイプを、フィルムの途中で切り替えることができます。
選択したプリントタイプは撮影時にフィルム上に磁気で記録されます。その際、フィルム上には常にＨタイプの画面の範囲が写し込まれます。
Ｈ・Ｐ・Ｃタイプのそれぞれのプリントは写し込まれた画面の引き伸ばし範囲、縦横比および拡大率をプリント時に磁気記録に基づいて切り替えたものです。
(ネガカラーフィルム使用の場合)

Ｈ：ハイビジョンで写る構図を決めて、撮影してください。

＊ ファインダー画面で見える範囲がそのまま写ります。

＊ 構図上被写体がオートフォーカスフレームからはずれる場合はフォーカスロック撮影をしてください

Ｐ：パノラマで写る構図を決めて、撮影してください。

＊ ファインダー画面で見える範囲がそのまま写ります。

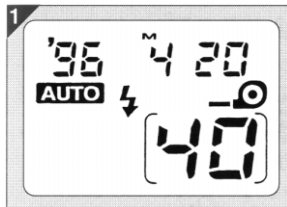
＊ 被写体が近いとき(0.6〜１m)は、近距離フレーム(左上)の範囲に構図を決めて撮影してください。

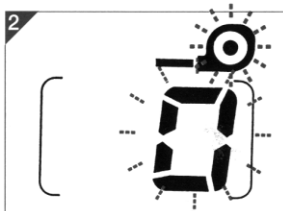
＊ Ｈタイプの縦方向と横方向、Ｐタイプの横方向およびＣタイプの縦方向の引き伸ばし範囲は写し込まれた画面より若干小さくなります。

Hタイプ

Pタイプ

Cタイプ

写し込み画面上の引き伸ばし範囲

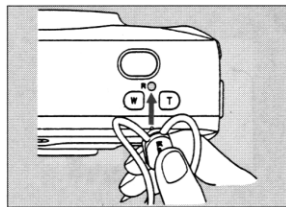
	縦：横
Hタイプ	9：16
Pタイプ	1：3
Cタイプ	2：3

11. フィルムの取り出し方

フィルム巻き戻しも自動です。

フィルムが最後になると自動的に巻き戻しが始まり、フィルムカウンターが最終コマのカウントを表示します。

＊ フィルムカウンターは、巻き戻しに連動して減算します。

巻き戻し完了で自動的に停止します。フィルムカウンターの“０”の点滅を確認した上でカートリッジぶたを開け、カートリッジフィルムを取り出してください。

＊ 写し終わったフィルムは、お早めにDP店にお持ちになり、プリント依頼をお願いします。

途中巻き戻しの方法

途中巻き戻し（R）スイッチをストラップ調整具の突起部で押すと、撮影途中のフィルム巻き戻しができます。

＊ 巻き戻しが始まると、ボタンを押し続けなくても、完了まで巻き戻されます。

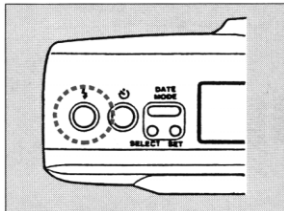
＊ 巻き戻し後の手順は、自動巻き戻しの場合と同じです。

＊ このカメラは途中巻き戻しをしたフィルムの再使用はできません。ご注意ください。

応用撮影

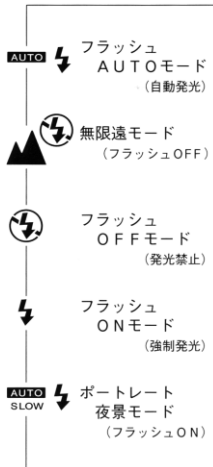
撮影モードの切替えによる、赤目軽減撮影、日中フラッシュ、ポートレート夜景撮影、フラッシュなしの撮影、無遠限撮影、セルフタイマー撮影などの応用撮影について説明します。

モードスイッチー１の操作

被写体に応じて最適な露出方法を選択できます。

電源ONすると表示パネルは、AUTO ϟのモード表示がでます。モードスイッチ１を押すと撮影表示パネルにモードが順次表示され循環します。

＊ モードスイッチ１の各モードは固定され、一度設定したモードで撮影を続けられます。

＊ 撮影が終わったら“AUTO ϟ”に戻しておきましょう。

＊ パワースイッチをOFFにして、再度ONすると、“AUTO”に復帰します。

1. 無限遠撮影 フラッシュOFFモード

ピントが無限遠に合い遠景をシャープに描写します。

モードスイッチ１を押して撮影表示パネルにを出します。
オートフォーカスフレーム内の被写体に関係なく、遠景にピントの合った撮影ができます。

＊ 夕・夜景など暗いときの無限遠撮影では、フラッシュOFFモード(フラッシュなしの撮影)になりますので、シャッター速度が遅くなりますから、三脚を使用してください。

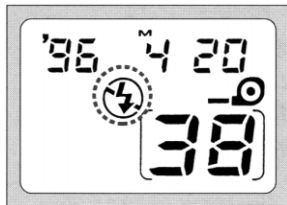
効果的な被写体

①遠景
②ガラス越しの風景

ガラス越しの風景を無限遠撮影

一般撮影

2. フラッシュなしの撮影 フラッシュOFFモード

暗くてもフラッシュが発光しません。

モードスイッチ１を押して撮影表示パネルにを出します。
被写体に向けてシャッターを切れば、最長1/6秒までのスローシャッターによる自動露出撮影ができます。

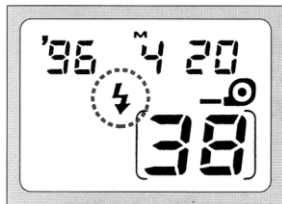
＊ 暗い場所では三脚を使用してください。

効果的な被写体

① フラッシュが禁止さている美術館での撮影
② 都会の夜景
③ 日没時の風景

スローシャッターによる自動露出撮影

3. 日中フラッシュ撮影ϟ　フラッシュONモード

フラッシュが常時発光し逆光人物などに効果的です。

効果的な被写体

① 逆光の人物
② 室内窓際の人物
③ 曇り日の人物
④ 日陰の人物

モードスイッチ１を押して撮影表示パネルにϟを出します。
被写体に向けてシャッターを切れば、明るい所でもフラッシュが発光します。

＊ シャッターボタン半押しで、赤ランプが点灯します。
＊ この時のシャッター速度は、最長1/60秒までとなるので、カメラぶれに注意してください。

日中フラッシュ撮影

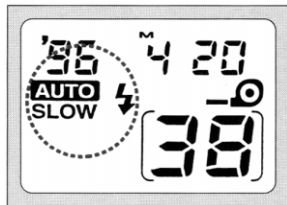
フラッシュなし撮影

4. ポートレート夜景撮影 AUTO SLOW フラッシュONモード

スローシャッターでフラッシュが発光します。

モードスイッチ１を押して撮影表示パネルにAUTO SLOWを出します。
暗い場所で被写体に向けてシャッターを切れば、最長1/6秒のまでのスローシャッターによるフラッシュ撮影ができます。

＊ カメラぶれをしますので、三脚を使用してください。

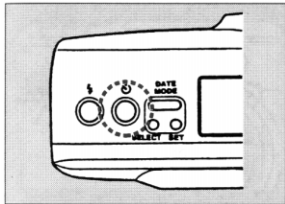
＊ 被写体が動いているときは、ぶれて写ります。

効果的な被写体

① 夜景の人物
② 夕景の人物
③ バックにフラッシュ光が届かない室内の人物

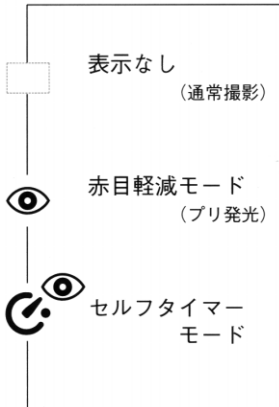
ポートレート夜景撮影

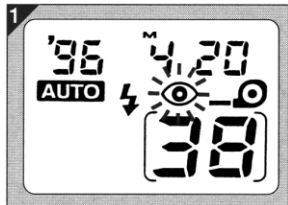
AUTOフラッシュ撮影

モードスイッチー２の操作

赤目軽減撮影、セルフタイマー撮影が楽しめます。

モードスイッチ２を押すと、撮影表示パネルにモードが順次表示され循環します。

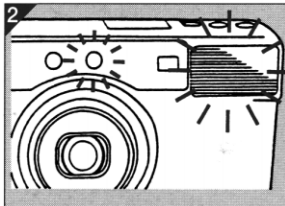
＊ 赤目軽減モードは連続して一度設定したモードで撮影を続けられます。

＊ セルフタイマーモードは、撮影ごとに表示なしに戻りますから、同じモードの撮影を続けるときは、新たにセットし直してください。

1. 赤目軽減撮影 フラッシュAUTOモード

人物のフラッシュ撮影で目が赤く写るのを軽減します。

モードスイッチ２を押して撮影表示パネルに出します。

効果的な被写体

暗い場所の人物フラッシュ撮影（予備発光で瞳孔を小さくした上で本発光をするので、赤目現象を軽減します。）

＊ 赤目軽減撮影は、フラッシュ発光モード(AUTO・ON・ポートレート夜景の各モード)のときに使用してください。

人物に向けてシャッターを切ると撮影直前に、赤目軽減ランプが約１秒点灯(プリ発光)してから、フラッシュが発光します。

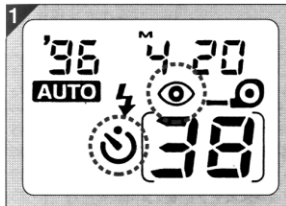
＊ プリ発光から本発光までの間、カメラを動かさないように注意してください。

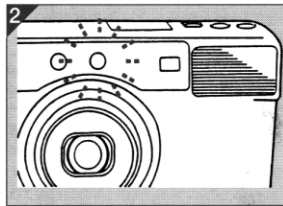
◎赤目現象について

暗いところで人物をフラッシュ撮影をすると、フラッシュ光が目のなかに反射して赤く写ることを「**赤目現象**」といいます。
そこで赤目軽減モードで撮影すると、赤目軽減ランプの点灯で写す人の瞳孔が小さくなり、赤目現象を軽減させることができます。

＊ 写してもらう人が赤目軽減ランプの点灯したところを見つめると、より一層の効果があります。

2. セルフタイマー撮影

記念撮影や近距離・無限遠撮影にも活用できます。

モードスイッチ２を押して撮影表示パネルにを出します。
被写体に向けてシャッターボタンを押すと、セルフタイマーがスタートし約10秒後にシャッターがきれます。

＊ 三脚を使用してください。

スタートと同時に赤目ランプが７秒間点滅した後３秒間点灯して、撮影します。

＊ スタートはカメラの後から行ってください。前からでは正しいピント、露出がえられません。

＊ スタート後にキャンセルしたいときは、パワースイッチをOFFにしてください。

おもな仕様

下記製品については当社試験条件によります。
製品の使用、外観については予告なく変更することがあります。

項目	仕様
形式	：ＩＸ240カートリッジ式ズームレンズ付きAF自動カメラ
画面サイズ	：16.7×30.2mm
レンズ	：コニカズームレンズ30mm F 4.5～60mm F 8.5　(5群5枚)レンズカバー付
パワースイッチ	：電源ONで鏡胴が繰り出しレンズカバー開、電源OFFで鏡胴が収納、電池残量液晶パネルに点滅表示、レンズカバー開、約3分後自動的に液晶表示消灯
シャッター	：絞り兼用プログラム電子シャッター、電磁レリーズ、1/ 6～1/ 320秒
焦点調節	：アクティブ式自動焦点、撮影範囲0.6m～∞ フォーカスロック可能、無限遠撮影可能
露出調節	：CdS受光素子使用のプログラムAE、中央重点測光
露出連動範囲	：ISO400　f ＝30mmEV6～EV14 f ＝60mmEV7～EV15
フイルム感度	：自動設定(ISO50～1600)
ファインダー	：実像式ズームファインダー、オートフォーカスフレーム、近距離補正マーク
フラッシュ	：手ぶれ限界の低輝度時に自動発光するフラッシュマチック機構、 連動範囲・(ISO400) f ＝30mm　0.6m～7.4m f ＝60mm　0.6m～4.0m 発光間隔・約8秒、フイルム感度・撮影距離・焦点距離を自動的に判断して光量調整

プリントタイプ	：プリントタイプ切替えノブによりファインダー内のフレームをHタイプ・Pタイプ・Cタイプの3種類に切替えフイルム途中の切替え可能 プリントタイプは撮影時にフイルムに自動的に磁気記録
モード切替え	：フラッシュ自動発光→無限遠撮影→フラッシュOFF→フラッシュON→ポートレート夜景撮影→赤目軽減(プリ発光)→セルフタイマー撮影の各モード選択可能、液晶パネルに表示
セルフタイマー	：電子式、作動時間約10秒、セルフランプが約7秒点滅した後・3秒間点灯、途中解除可能
フイルム給送	：電動式、カートリッジぶた閉でスタートするオートローディング、自動巻上げ、フイルム規定撮影枚数終了で自動巻き戻し、巻き戻し後自動停止、途中巻き戻し可能、カートリッジ途中交換機能なし
フイルムカウンター	：減算式、液晶パネルに表示
オートデート	：液晶パネルに表示、写し込みOFF→年月日→月日年→日月年→時分を表示
電池寿命	：50%フラッシュ発光のとき約10本(25枚撮り使用)
電源	：リチウム電池(CR-2)1本
大きさ	：115×61.5×39.7mm
重さ	：196g(電池別)